

学校図書館 Take Off!

No.16



本号の目次

- 子どもゆめ基金助成活動報告 _____ P2～3
広瀬恒子さん講演会 『子どもの本を読みましょう Part2』
- 特集:学校図書館見学会レポート _____ P4～7
市内学校図書館見学会から(中山小学校)
市外学校図書館見学会から(町田市立成瀬台中学校)
- これからの予定、情報 _____ P8

「学校司書」が正式名称に！

八王子市では「図書館サポーター」として市内の学校に派遣されている職員の名称が、今年四月から「学校司書」という名称になるそうです。「サポーター」というあいまいなものではなく、きちんとした名称になることは喜ばしいことです。個人的には「学校図書館司書」という方がより分かりやすいと思いますが、何はともあれ少しずつでも前進していることに希望の光が見えます。派遣される「学校司書」も四月より増員されるようで、すべてではありませんが、多くの学校で、また新たな第一歩を踏み出す情景が目に見えます。

私たちの活動も、「学校図書館」がどうなれば子供たちの読書や学習により豊かに活用されるのか、いく度も講演会や学校図書館見学会をもって、学習し合ってきました。今年も、情報交換会(井戸端会議)や専門の先生を招いての学習会を行います。たくさんの子供たちの笑顔のために学校図書館を支援していきたいと思えます。多くの方々への参加をお待ちしております。

(本会代表 宮本茂)

八王子に学校図書館を育てる会広報紙

二〇一五年三月二十一日発行 第十八号

平成二十六年度子どもゆめ基金助成活動

「子どもの本を読みましよう PART 2」 広瀬恒子さん 講演会（十月二十六日）

冒頭、これからの日本が将来へどう舵を取っていくのか不安があるとお話から、『石を抱くエイリアン』（濱野京子・作 偕成社）という本が紹介されました。中学生の女の子が主人公ですが、「自分に希望なんかありはしない」と家中の辞書から〈希望〉という言葉を取り取るといいます。

明るい話題もありました。上橋菜穂子さんが「小さいノーベル賞」ともいわれる国際アンデルセン賞作家賞を受賞、日本人で四人目です。受賞後出版された『鹿の王 上・下』は児童文学の域を超えているとの評価も。『光のうつしえ 廣島 ヒロシマ 広島』（朽木祥・作 講談社）、『ぼくのふとんはうみでできている』（ミコロマチコ・作 あかね書房）は、小学館児童出版文化賞を受賞し、かこさとしさんは四十年ぶりに『かすのぱんやさん』の続編を出版しました。

今年は大切な人が亡くなった年でもありました。まどみちおさん（石ころから宇宙まで見つめた）、やなせたかしさん（イケイケどんでないポリシーを感じ

る）、古田足日さん（評論や社会活動もされていた）、ダニエル・キースさん（『アルジャーノンに花束を』は十代の子どもたちに出合わせたい）。心からご冥福をお祈りします。

二〇一三年、子どもの本は三〇八〇点出版され、そのうち絵本が三四・五%、児童書が二二・二%でした。

絵本ではこわい話に人気がありますが、子どもにも合わせることについての賛否両論があるようです。ノンフィクション絵本に力作が多くありました。一方、日本人作家のお話は心象風景に寄り添いすぎた作品が多かったようです。『クリステイナとおおきなはこ』は子どもの想像力をスタンダードに描き、『悟空、やつぱりきみがすき』は絵が良い。『道はみんなのもの』では子どもたちが図書館に行って調べます。伝記を絵本にしたものが多くなっています。

子どもの本をめぐる問題として

*学校図書館法の一部を改正する法律が成立しました。しかし、努力目標であって義務ではありません。専門性も問われていません。これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質の向上などについてまだまだ考えていかなければなりません。

*読書の自由に関して『はだしのゲン』が学校図書館に蔵書としてあるかなどという調査が入った地域もあったそうです。

私たちの会発足当時から活動を見守ってくださっている広瀬さんのお話は、もちろん「本の話題」ですが、私たちの生き方にまで示唆を与えるものでした。しっかりとアンテナを高くして、子どもたちが「人生に希望が持てる」と信じられるようにできることを一つずつ…と思っています。

《広瀬さんからの宿題》

『はじまりのとき』ティーン・ハ・ライ著 すずき出版 ニューベリー賞オナーブック受賞)
ベトナム戦争の話です。南の裕福な家の子の視点で叙事詩のように書かれています。皆さんは読んで、どのように思われますか？

一冊の本を読んで、立ち止まって意見を交換してみること大切だとしめくくられました。

(会員 Y・K)

絵本

- 「追跡! なぞの深海生物」(藤原義弘・著 あかね書房)
- 「ミジンコ水の中の小さな生き物 かがやくいのち」(武田正倫・監修 あかね書房)
- 「きせきのお花畑」(藤原幸一・著 アリス館)
- 「クリスティーナとおおきなほこ」(パトリア・リー・ゴーチ作 偕成社)
- 「悟空、やっぱりきみがすき」(向 華・著 ポプラ社)
- 「道はみんなのもの」(クルーサ著 さえら書房)

昔話

- 「犬になった王子」(君島久子・著 岩波書店)
- 「マッチ箱日記」(ポール・フライシュマン作 BL 出版)

ファンタジー

- 「ライオンのひみつ」(マーガレット・ワイルド文 国土社)

ノンフィクション

- 「北加伊道」(関谷俊隆著 ポプラ社)
- 「淀川ものがたり お船がきた日」(小林豊著 岩波書店)
- 「ネルソン・マンデラ」(カディール・ネルソン著 鈴木出版)
- 「ヘレン・ケラーのかぎりない夢」(ドリーン・ラパポート著 国土社)

幼年童話

- 「アヒルのてがみ」(朽木祥文・ささめやゆき絵 佼成出版社)
- 「こねこのレイコは一年生」(ねぎしたかこ文・にしかわおさむ絵 のら書店)
- 「やさしい大男」(ルイス・スロボトキン作・絵 徳間書店)
- 「すずめこんどうくん」(最上一平著・かつらこ絵 WAVE 出版)

物語

- 「わたしのひよこ」(磯みゆき著・ささめやゆき絵 ポプラ社)
- 「ゆかいなヘンリーくん」(ベバリー・クリアー著 学習研究社)
- 「そこから逃げ出す魔法の言葉」(岡田淳著 偕成社)
- 「かさねちゃんにきいてみな」
- 「ゾウと旅した戦争の冬」(マイケル・モーパーゴ著 徳間書店)
- 「テラプト先生がいるから」(ロブ・ブイエー作 静山社)
- 「ラモーゼ 上・下」(キャロル・ウィルキンソン作 くもん出版)

広瀬さんが
紹介してくださった本

学校図書館サポーターの派遣で実現！

T1、T2※、学校図書館サポーターの協働による 「学校図書館を生かした理科の調べ学習」

二〇一五年二月六日、八王子市立中山小学校へ学校図書館見学と授業参観に会員六人で出かけました。心配された雪も降り積もることなくお日様輝く冬の日となりました。そこで見たこととは！

中山小学校は昨年度より学校図書館サポーター（以下サポーター）が派遣され、環境整備や授業支援が整い始めました。今年度はその整った学校図書館の中で、一人一人の児童が生き生きと調べ学習に取り組む姿をみることができました。八王子市では、二〇一二年二学期からサポーターが週に一回派遣されるようになりましたが、今回サポーターの支援による理想的な授業を参観させていただきました。毎年少しずつ積み上げて歩んできた成果です。ここに授業のねらいと様子をお伝えします。

1 授業のねらい

第4学年理科「季節と生き物（冬）」指導者 T1教諭／T2教諭／サポーター

*本時のねらい（3・4時／全10時）



2 授業の様子

*サポーター：ブックトラックに本を用意

（注）TTとはTeam Teachingの略。複数の教師がチームを組んで生徒の個人差に応じた学習指導をする協力的教育方法。（研究社『新英和大辞典』第5版より）
一般的にTは教師を指し、T1／T2といった場合は教員二名による授業のことを指します。

① 図書資料を使うときの、資料の探し方、図書の扱い方について理解する。

② 自分が調べたい生き物についての調べ方、まとめ方についての方法を理解し、実際に調べてカードに記入する。

① 本の扱い方（本をとる時、めくる時、メモを書く時）を教える。

② 調べ学習とは何か（「疑問」を「わかった」にするのが調べ学習。資料で調べる、自分でやってみる、人に聞くとという方法がある）を教える。

③ 百科事典の引き方（辞典・事典にある小口、つめ、柱の利用）をおさらいする。

④ 図鑑の使い方（目次、索引）をおさらいする。

⑤ 図書館の分類（植物図鑑は4類、学校や図書館はどこへ行っても同じ背ラベルがついている）をおさらいする。

*T1: 複数の図書から調べることができるように具
体例(タンポポ、テントウムシ)を示す。情
報カード4枚を実際に見せながら説明する。

*児童: 学校図書館、校庭、ビオトープに分かれて調
べるものを探していく。情報カードと筆記用具を持っ
てでかけていく。

*T1・T2は校庭、ビオトープで指導する。サポー
ターは学校図書館でアドバイスしたり、相談にのった
りする。

以上が授業のねらいと様子です。

このクラスは今までも調べ学習を積み上げてきた
そうです。けれども、今回の授業を成立させるために、
早い時期からT1とサポーターは打ち合わせを行い、
資料準備に時間をかけたそうです。
最後に会員の感想を紹介します。

授業参観の感想

・サポーターの方は一週間に一度という厳しい条件の
下、よくここまでT1・T2と連絡をとりながら、
授業計画を立てられたことかと驚きました。

・T1・T2・サポーターの専門性が発揮されていて
素晴らしい授業でした。

・T1がタンポポやテントウムシの具体例を図書資料

や情報カードを使って児童にきめ細かく指導なさっ
ていて、聞いているこちらも、うんうんとうなずく
ほどでした。

・児童が観察や図書資料で調べるとき、生き生きと活
動しているのが印象的でした。

・情報カードは1枚だけではなく、複数の資料で調べ
るために何枚も使うということ児童は当たり前前
のように知っていて頼もしかったです。

・以前学習した調べ方を何回も繰り返し指導を重ねて
いくことにより、児童に徐々に定着していくのだと
思いました。

・今までの調べ学習の積み上げがなされていて素晴ら
しい。

・一学期に児童が作った「春の生き物図鑑」の冊子を
みると、序論・本論・結論・参考資料という構成で
作成されており、調べ学習のまとめ方の指導がきち
んとなされていました。今回の冬
の生き物調べでは更に内容も深
まり、今後の他教科の調べ学習に
もつながっていくことでしょう。

王子市のどの小中学校にも

こういう授業が実現できる日がくる

ことが楽しみです! (会員 M・O)



町田市立成瀬台中学校を訪問して

二〇一五年三月二日、横浜線成瀬駅からバスで十分弱の所にある町田市立成瀬台中学校図書館を見学しました。校舎一階の端にある図書館は広々と明るく健康的で、生徒たちには多くのメッセージを届けている様子が見られました。質問をしながら図書館の様子を見せて頂いたあと、図書指導員の水越規容子さんと古田玲子さんのお二人とお話を伺いました。



町田市では一九九九年、市内六校をモデル校に、初めて図書指導員を導入、二〇〇一年度には公立小中学校（小：四十校、中：二十校）全校に配置しています。（現在は小：四十二、中：二十）図書指導員は一日四時間まで年間百七十五日の司書資格を問わない有償ボランティアで、学校ごとの募集だそうです。水越さんは制度発足の前から図書ボランティアとして関わってこられました。現在は古田さんと二人で曜日を担当して交代で活動しています。お二人とも司書資格をお持ちですが、「有償ボランティア」の立場で成瀬台中学校図書館

を現在の姿まで築いてくれました。

創立以来四階で開かずの間だった図書館を開放して貸出しをしたい、と学校に働きかけたのがボランティアでした。この熱意は学校を動かし、先生方の意識を変え、総合学習で「図書館を使った調べる学習」を司書教諭とともに行うまでになりました。水越さんと司書教諭の授業連携はすばらしく、様々な場所での実践報告もされています。二〇〇八年度には文部科学省の「新教育システム開発プログラム」の研究校に応募して「全国の資料数が図書標準に達していない七十校への購入資金援助」対象となり、三千二百五十冊分の蔵書購入予算を得ます。蔵書が一気に増えたため、四階から、一階の元美術室だった二教室を一部屋に改造した今の場所へ図書館は引越しました。その際には市教委だけでなく、おやじの会やPTAからも援助があったそうです。

その後二〇〇九年には電算化も果たし、バーコード読み取りによる貸出しや市の図書館との連携も進みました。配架の工夫、館内表示の見やすさ、生徒たちに伝わるテーマ展示、長い年月をかけ培われた蔵書的確さ、どれも魅力的で「人がいる」ことがよくわかる素晴らしい図書館になっていました。有償ボランティアでありながら、本について学校図書館について勉強を重ねられた成果と感じました。

しかしながら今回の訪問で、貸し出しは昼休みのみで放課後は閉館しなければならぬ上、授業での図書館利用は減少傾向にあるとお聞きしました。水越さんたちの目覚ましい仕事ぶりに驚嘆していた私たちは少なからずショックを受けました。

町田市の図書指導員は学校ごとの募集でそれぞれの活動をしているため、その成果は学校間で差があるようです。市が行う研修は年に二回あり、これとは別の自主的な集まりも行っているようですが、参加者は限られてきているとのことでした。授業で図書館利用をする学校の体制ももちろんですが、自治体、教育委員会の後押しが大切なのだと感じました。学校図書館が「読書センター」及び「学習・情報センター」としてきちんと機能し続けるためには「人がいること」、「本があること」を満たしてもまだ十分ではないのだ、ということを経験して考えさせられました。

二〇一〇年には「町田市立小中学校図書館に専任・専門の学校司書を公募で配置することを求める請願」が採択されたそうです。今後の町田市の学校図書館の発展に期待したいと思います。

八王子市で現在派遣されている学校図書館サポーター



ーは、司書・司書教諭・司書補のいずれかの資格を持ち、ボランティアの延長とは異なります。四校兼任で各校週一日勤務という過酷な条件ではありますが、月に一回の連絡会・研修会の制度があります。教育委員会のサポートがある体制は安心材料のひとつでしょう。

とはいえ、大前提となる「八王子市の学校図書館の目指す姿」を共有することはできていないでしょうか。学校図書館サポーターが増員される今、教育委員会が方向性を定め、提示することで、学校図書館に関わる全員が同じ方向を向くことができます。それはとても大きな意味を持つていると考えます。なぜなら学校図書館サポート事業の舵取りが個々の理想や信念だけに頼らないものとなり、現場で試行錯誤するサポーターやボランティアのモチベーション維持につながるからです。歩みはゆっくりでも八王子市の学校図書館が着実に前に向かって行くために、教育委員会には「八王子市として目指す姿」を示していただきたいものです。

今回の訪問では期せずして八王子の制度の良い面を見直すこととなりました。できないことを挙げていくのではなく、できることひとつひとつに最善を尽くすことで確実に前進することを信じようと思えました。

(会員 C・S)

本会のこれから予定から

平成二十七年度も様々な企画を計画しています。八王子の学校図書館を、子どもたちと本のことを、ご一緒に考えてみませんか。大勢の皆様のご参加をお待ちします。

「学校図書館井戸端会議&カフェ」 七月十三日(月)
「すべての子どもたちに学校図書館を」

野口武悟氏講演会 十月四日(日)
「子どもの本を読みましよう」

広瀬恒子氏講演会 十二月六日(日)
そのほか読書会や、会員研修としての学校図書館見学会なども企画しています。チラシや梓外URLのホームページでご確認ください。

情報



「第三次読書のまち八王子推進計画」について

八王子市が行ったパブリックコメントの募集に対して一四一件の意見が寄せられたそうです(八王子市ホームページに公開された概要より)。その中で、これまでの「学校図書館サポーター読書推進担当」という名称が「学校司書」となることが明記されました。

今回訪問させていただいた成瀬台中学校の校長先生は、平成二十四年度まで八王子市立中山中学校の副校長だった石上先生でした。訪問を快くお引き受けいただいたことを感謝いたします。学んだことを八王子市の学校図書館充実のために生かしたいと思います。ありがとうございました。

会員募集

正会員：…本会のすべての活動に参加できます。

入会金500円、年会費1000円です。

賛助会員：…広報紙やイベントの情報をお届けします。本会の活動を支援してくださる個人、団体の方。年会費一口 1000円です。

編集後記

本会活動開始から十三年。学校図書館への専門職員
の配置を働きかけてきました。この間、教育委員会にも耳を傾けていただくことが出来、とうとう全校へ「学校司書」の配置される日も夢ではなくなりました。学校図書館といういいもの、そこにいる人、価値ある資料。これらがそろってようやく「学校図書館」の機能が発揮されるようになるのです。八王子のこれからに期待し、次世代を担う子どもたちのための教育の充実を願っています。